

本日は、多くの皆様方に、「古代歴史文化賞」記念講演会にお出でいただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

この賞の決定は、9月9日に選定委員会により東京で行われ、授賞式は、やはり東京で11月17日に行われました。

この賞は、島根県の提唱で始まったものでありますので、創設の経緯について、最初に少しお話し申し上げたいと思います。

3年前の2010年、奈良県で平城京遷都1300年の式典が行われました。このとき、私も式典に招かれて出席しておりまして、710年の平城京遷都の2年後に古事記が編纂され、2012年に1300年を迎えることを改めて認識しました。

皆さんご承知のように、古事記は上・中・下巻の三巻から成っています。上巻は「神話の世界」が記され、その三分の一は出雲神話が占めております。

また島根には、荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡、出雲大社など、古代出雲の隆盛を物語る遺跡や場所があります。そして県内各地には、神事や神楽などがたくさん残されています。

そして2013年は、出雲大社の60年に1度の遷宮と伊勢神宮の20年に1度の遷宮が重なる年であります。

こうしたことは、島根を全国の多くの方々を知っていただく良い機会になると考え、官民一体となった「神々の国しまねプロジェクト」を始めることとし、昨年は神話の博覧会なども開催いたしました。

こうした中で、国内では、古代の歴史や神話を解説した本が数多く出版されてきて、多くの国民の方々の中で、「日本という国がどのようにして出来たのか」など、日本の古代世界に対する関心も急速に高まってきました。

しかし、出版された本の中には、一般の読者には難しいものであったり、フィクションとして書かれたものも多くあります。

このため、「歴史的な研究を踏まえながらも、わかりやすい本が出版されると、もっと多くの方が、日本の歴史に興味と関心をお持ちになるのではないか」と思われました。

そこで、古代の歴史・文化にゆかりの深い三重県、奈良県、宮崎県の知事さんなどと相談いたしまして、今回、「古代歴史文化賞」を共同で創設することになったのです。

それでは、次に古代歴史文化賞がどのように選定されたのか、その方法につきまして ご説明申し上げます。

実は、松江市在住の方で、文藝春秋社で芥川賞や直木賞の選考の作業に長年、関与された方がおられまして、その方にその選定方法を教えていただき、それを参考にしまして、次のような方法で選定することとしました。

まず、選考の対象となる書籍は、国内の学識経験者の方々や出版社などから推薦をしていただきました。今回は49点ありました。

そして、本日お出でいただいております国立歴史民俗博物館館長の平川南先生ほか、この分野で経験豊かな先生方、6名の方々に選定委員になっていただきました。

この選定委員会のご指導を受けながら、今年4月頃から 推薦された書籍の読み込み作業を県の古代文化センターの専門職員などにより行い、8月中旬に大賞候補作を5冊に絞り込みました。

そして、9月9日に東京で開催された選定委員会で、この5冊の中から古代歴史文化賞の大賞と4点の地域賞が決定されたのであります。

受賞作の決定後、東京・大阪などの大きな書店や県内の書店において「古代歴史文化賞フェア」と銘打ったコーナーが置かれております。

また、それぞれの書籍の出版社には全国から多くの反響が寄せられ、版を重ねておられるものもある、とお聞きしております。

今般の「古代歴史文化賞」創設をひとつの契機としまして、より多くの県民の方々、そして国民の間で、日本の国家の成り立ちについてなど「古代世界」についての様々な関心が高まることを期待しまして、開会に当たりましてのご挨拶に代えさせていただきます。